

事例8-5

取組名	棚峯町会自主防災組織の活性化		
町会名	中山棚峯町会（中山地区）	町会 データ	・人 口／942 人 ・世帯数／434 世帯 ・高齢化率／47.24% ・町会加入数／352 世帯 ・常会数／3 ブロック ・隣組数／20 組
取組概要	町会として自主防災会を組織している。当時の町会長が松本地震を契機に、各部門の専門人材を入れて組織化し、現在まで継続している。		

背景・課題

- ・ 松本市が開発・造成を行った住宅団地で、令和8年で38年目を迎える。年齢別には開発当時に家を建てた第1世代の60代から70代の人口が最も多いが、既に亡くなったりして空き家となっている世帯も出始めている。空き家でも家主が別の場所にいて、町会費を払ってくれる世帯もある。
- ・ 宅地としての需要はあるため、新しく転入してくる人もいるが、町会に入ってくれない世帯も多い。また、年を取って役員ができないからと町会を脱退したいという世帯も出てきている。
- ・ 町会未加入世帯が約50世帯ぐらいあり、町会加入の意義やメリットの周知が課題となっている。

経過・取組内容

- ・ 松本地震を契機として、自主防災会を設置して15年ぐらいになる。システムエンジニア、建築、医療、無線、ガス、行政など、その分野に詳しい町会在住者に当時の町会長が声をかけて組織化した。永久会員の専門集団で、隣組の輪番で選出される生活安全部（交通安全部と防災部を合わせた役）を支える役割を果たしている。牛伏寺断層が近くにあることも設立要因の一つ。
- ・ 自主防災会の役割としては、年1回実施する防災訓練の企画の他、町会の防災計画の見直しや組織作り、町会の備蓄計画なども作成している。会議は毎月第2水曜日の夜開催している。
- ・ 訓練内容は、町会内の消防団員の協力も得て、

放水訓練やAEDの使用、煙道訓練などを行う。

- ・ 安否確認訓練も実施している。町会で「助け合い台帳」を整備して、どの世帯に何人住んでいるか、小学生より下の人が何人いるか、手助けが必要な人が何人いるか、などの情報の他、家族の連絡先や緊急連絡先を登録している。その情報は隣組長に提供しているが、なかなか手助けが必要な人の情報を出してもらうのが難しい。年1回の訓練の際に点検・更新している。

成果・今後の展望等

- ・ 自主防災会が、輪番の町民だけではなく、永久会員の専門集団が存在することで、防災活動の蓄積と引継ぎが確実にできている。
- ・ 自主防災会の活動が存在することで、町会加入の意義やメリットの一つに位置付けることができている。



▲棚峯町会 放水訓練の様子

【ポイント】役員を輪番による選出だけでなく多様な専門家を加えることで、ノウハウの蓄積や活動の活性化につながっている点